

道 徳

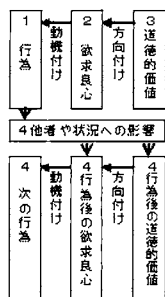
北 川 忠
松 井 由 紀

1 道徳における知識創造とは

道徳的課題

より善く生きるために考えるべき課題ととらえている。つぎの4つを考えていく。

- 1 どのような行為をすべきか、すべきでないか
- 2 行為の直接的動機である欲求・良心
- 3 欲求・良心に影響を与える道徳的価値
- 4 行為が、他者・状況、自分の欲求・良心・道徳的価値、次の行為に与える影響



道徳的価値

人間らしい善さと考えている。社会規範を内面化したもので、行為を動機付ける欲求や良心を方向づける。礼儀や、節度のある生活習慣など。

道徳における知識創造を次のように定義する。

道徳的課題と向き合い 「ひと・もの・こと」とかかわることを通して道徳的価値の意味や重要性を理解し 自分の行為について思考する 営み
発展として より善い行為や生き方を 追求し実践しようとする 心情や思考を培うことを含む

「ありがとうって言ってもらってうれしかった」「忘れ物をするくせ、なんとかしたいな」—個々の子どもは、日常体験の中で、気持ちよく過ごすための行為について気づきを生んでいる。

道徳の時間に、日常体験に近い課題や、問題意識を生む課題に出会うことによって、個々の子どもは道徳的課題について考えるべく、向き合う。

教師が示す資料や日常体験などを基に、個々の子どもは、ある行為をすべきかどうか、行為をしたときどのような心情だったのかなどについて話し合ったり、ロールプレイングをしたりする。ある行為をすべきかどうかは、行為の動機と行為による影響から判断されると考えられるが、動機とは行為者の欲求や良心である。また、この動機を方向付けるのが、道徳的価値である。行為がどんな動機によるもので、行為をすることによって、動機を方向付けている道徳的価値を実現できるのか考え、個々の子どもは、行為をすべきかどうか判断する。このとき、子どもは、道徳的価値の意味を理解し、その重要性を再認識して、道徳的価値を高めると考えられる。

そして、高まった道徳的価値を基に、自分のこれまでの行為や今後の行為について考えることによって、個々の子どもは、単なる理想ではなく実際の自分の行為に関わる価値として道徳的価値をとらえ、道徳的価値の自覚を深める。深まった自覚を聴き合うことで、道徳的価値の自覚をよりいっそう深めると考えられる。

このように、「ひと・もの・こと」とかかわることによって、道徳的価値を高め、高まった道徳的価値を基に、道徳的価値の自覚を深めることを、道徳における有意味化と考えている。

さらに、発展として、個々の子どもが、より善い行為や生き方を追求し実践しようとする心情や思考を自ら育むことをめざしている。

2 道徳における「プロセスの自覚」を促す・活かすために

(1) 道徳における「よさ」

より一般化された道徳的価値を生み出す

道徳における「よさ」には、思考の「よさ」と学び方の「よさ」がある。

思考の「よさ」とは、多様な道徳的価値を学び、それらの共通点を結びつけて、より一般化された道徳的価値を生み出すことである。例えば、子どもが、「思いやり」と「友情」という道徳的価値の共通点は「相手のことを考えること」だと考え、これを自分の行為に生かしていこうとすることである。

自分の行為を決定するあらゆる場合に、道徳的価値や自他の損得を考えたり、他者の助言を求めたりすることは、実際にはできない。また、核家族化が進み、地域の人々とのかかわりが少ない現代では、生活知、知恵、分別に含まれるような、行為の道徳的な原則を子どもが実生活で学ぶ機会は少ない。特に、本校の子どもは、長距離の通学によって、人間関係が希薄で生活経験も少ないことが懸念される。ゆえに、行為の道徳的な原則となる、より一般化された道徳的価値を生み出すことが重要になる。

相手の思考を受容的に聴き、人間理解を深める

学び方の「よさ」とは、相手の思考を受容的に聴き、人間理解を深めることである。個々の子どもは、話し合いや聴き合いで、登場人物の欲求や良心などについて意見を伝え合う。これは、登場人物に仮託して、自分の欲求や良心と、それを方向づけている道徳的価値を伝え合うことでもある。

友達と自分の意見が異なっていたとしても、むやみに批判せず受けとめるようにするのは、相手の道徳的価値を尊重し理解するためである。友達の意見と自分の意見との差異から、自分の道徳的価値が明確になることもあるだろう。このような経験を重ねることによって、友達や自分を知り、人間理解を深めることができると考えている。

より一般化された道徳的価値を生み出すこと、相手の思考を受容的に聴き人間理解を深めることは、より善い行為と生き方を実践するために重要であると考えている。

(2) 「よさ」の共有のための手だて

① 可視化

| | |
|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 状況を図式化した板書、思考のつながりを表した板書 | <p>より一般化された道徳的価値を生み出し、人間理解を深めるためには、行為を動機付ける欲求や良心を明らかにさせる可視化を行い、道徳的価値を明確にするための「かかわり」へとつなげていく必要がある。また、「かかわり」の後には、道徳的価値が高まり、道徳的価値の自覚が深まっていることに気づかせる可視化が重要となる。そこで、つぎのような手だてをとるようにする。</p> <p>ア 状況や場面の全体的なイメージがもてるように、行為者や周囲の人物の心情や状況を説明させ、それを図式化した板書をする。</p> <p>イ 道徳的価値が高まり、道徳的価値の自覚が深まっていく流れがわかる板書を心がける。</p> <p>ウ 心のカードを用いて、行為者の心情の中にある、相反する欲求や良心などを割合で表すようにさせ、自分の考えをもち、書く活動や話し合いなどで考えを表現できるようにする。</p> <p>エ 行為の動機についてどのように考えるか書く活動をさせて、行為者の欲求や良心について自分の考えを明瞭にさせる。</p> <p>オ 高まった道徳的価値を基に自分の行為をふり返って書く活動をさせて、道徳的価値の高まりや道徳的価値の自覚の深まりを確認させる。</p> |
| 心のカードで「かかわり」につなげる | |
| 書く活動で「かかわり」につなげる、思考のつながりを確認させる | |

② 「かかわり」

| | |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 分かりやすく、心を開ける資料を用いる | <p>より一般化された道徳的価値を生み出し、人間理解を深めるためには、行為者や周囲の人物の欲求や良心に仮託して、自分の欲求や良心を開示し、道徳的価値を明確にする「かかわり」が必要である。そのため、つぎのような手だてを重視したい。</p> <p>ア 行為の状況を明確にイメージでき、また、子どもが率直に自分の思考を語るることができる資料を用いる。日常体験を資料化する場合は、現実の人間関係と切り離して学習できるように配慮する。</p> <p>イ 話し合いの前に、意見の聴き合いを行う。聴き合いの目的が、意見をたたかわせるのではなく、それぞれの思考や価値観を認め合い理解し合うことだと理解させる。また、聴き合いの方法を、姿勢や表現法から、徐々に身につけるようにする。</p> <p>ウ 道徳的課題について話し合い、行為を動機付ける欲求や良心、そして欲求や良心を方向付けている道徳的価値を明らかにするため、行為の動機（行為をすべきだと判断した理由）に注目させるようにする。</p> |
| 聴き合いの目的と方法を理解させる | |
| 行為の動機に注目して話し合わせる | |

③ 実践的自覚へのデザイン

| | |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 必要感のある課題や、語り合いたい資料を提示する | <p>道徳における実践的自覚とは、個々の子どもが、互いの存在を認め合い、かかわり合って、より一般化された道徳的価値を生み出し、より善い行為や生き方を追求し実践しようとしている状態である。そのために、つぎのような手だてをとりたい。</p> <p>ア 一つ一つの授業では、子どもにとって必要感のある課題を投げかけたり、子どもから語り合いたい課題が生まれるような資料を示したりするなど、子どもが課題を自分のものとしてできるように授業設計を工夫する。</p> <p>イ 学習した道徳的価値をいつでも目にすることができるように掲示しておき、折に触れて日常体験と結び付けて学級で話題にする。</p> <p>ウ 学習の記録を家庭に持ち帰って道徳の学習内容を話すようにしたり、学級便りや個人懇談で子どもの善い行為を伝えたりすることによって、家庭と連携して、個々の子どものより善い行為や生き方を求めようとする心情や思考を支え、見守っていくようにする。</p> |
| 学習後も話題にする | |
| 家庭とともに見守る | |

3 実践例—4年—

(1) 主題名 何が大切かを考えて 1—(2) 思慮反省

資料名「どっちにしようか」(『小学校道徳4 ゆたかな心で』東京書籍)

(2) 本学習における知識創造

お母さんとの約束を守るべきか試合を続けるべきか—理由を話し合うことによって 様々な道徳的価値に気づき 思慮反省の大切さを理解し 自分の行為をふり返る営み 発展として 失敗したときこそよく考えよう よく考えて行為をしていこうという 思考や心情を育むことを含む

導入では、授業者の経験を聞かせ、自分の経験を思い出したり、それを聞いたりすることによって、「よく考えて行動することが大切であること(思慮反省)」について関心を向けるようにする。

展開前半では、まず、「広さんはどうして一人で考えこんでしまったのか」について話し合い、広の状況や心情を、共感的に理解するようにしたい。お母さんとの約束を守れば友達が困り、試合を続ければお母さんが困る、そのために、広は自分自身も困っている。困ったという心情を状況の全体像から理解することによって、広もつ様々な道徳的価値—「約束を守ること(規則の尊重)」「お母さんの言うことを聞くこと(尊敬)」「学級で協力すること(愛校心)」などに気づく手がかりにしたい。

つぎに、「迷っている広さんはどうしたらよいと思うか」、理由とともに考え、班で意見を聴き合い、その後、学級全員で話し合う。「お母さんとの約束を守る」か「試合を続ける」か—どちらの行為をすべきか、その行為を動機付けている欲求や良心と、行為の結果による影響から判断し、意見を出し合う。

「お母さんとの約束を守る」べきだと判断した場合、その理由には「約束を守りたい(規則の尊重)」「お母さんの言うことを聞かなくては(尊敬感謝)」などの欲求や良心が理由として挙げられ、欲求や良心には括弧書きしたような道徳的価値によって方向付けられていると考えられる。一方、「試合を続ける」べきだと判断した場合、「試合を続けるのも約束を守ることだから(規則の尊重)」「自分が試合をやめれば、友達が困る(思いやり、友情)」などが理由となるであろう。どの理由にも合理性があり、「迷っている広さんはどうしたらよいと思うか」の答えを一つにまとめることはできない。

このとき、広も周りの人も困っている状況はどのようにして起こったのか確認する。広は、お母さんとの約束があったことを忘れ、友達と試合を始めてしまったために、困っている状況を自らつくってしまった。軽率だった、よく考えていなかったと言わざるを得ない。広が、「よく考えて行動すること(思慮反省)」という道徳的価値をもっと重視していれば、「お母さんとの約束があるのに試合を始めてしまった」という間違った行為をせず、このような状況をつくらずにすんだと考えられる。「よく考えて行動すること」はやはり大切であると、子どもが理解するようにしたい。

展開後半では、「自分が行動するときに大切にしたいことは何か」、自分の行為を見つめて書き、それを聴き合う。「だれかと約束をしたときは、ほかの人と約束しない」「断るときは、言いにくくてもはっきりと伝える」など、具体的な行為を話す子も多いであろう。「よく考えて約束をするということだね」のような確認を教師が時折はさむことによって、子どもは思慮反省という道徳的価値を自分との関わりで理解できると考えられる。

終末では、失敗したことを契機に、よく考えて行動するようになった子の例を挙げて、「失敗したときこそ、よく考えるチャンス」「自分もよく考えて行動したい」という思考や心情をもつようにしたい。

なお、行為と行動とは、異なる字義がある。ただ、人間のふるまいとして同義に使われることも多い。そこで、子どもの生活に根ざした言葉で学習をしたいと考えることから、授業では、行為の同義語として行動を用いていく。

(3) 道徳における「プロセスの自覚」を促す・活かすために

① 本学習における「よさ」

聴き合いや話し合いを通して、個々の子どもは、友達や自分が行為を決定するときには「よく考えて行動すること(思慮反省)」の他にも様々な道徳的価値が関わっていることに気づくと考えられる。「約束を守ること(規則の尊重)」「お母さんの言うことを聞くこと(尊敬)」「家の仕事に協力すること(家庭愛)」「学級で協力すること(愛校心)」「友達のことを思いやること(思いやり)」などである。

多様な道徳的価値に触れておくことは、今後、これらの共通点を結びつけたり、優先性を考えたりして、より一般的な道徳的価値、例えば、「相手に迷惑をかけないようにすること」「自分がされて嫌なことは相手にしないこと」を生み出すことにつながると考えられる。

また、自分や友達が大切にしている道徳的価値を知り、自分や友達に対する理解を深めることが、本学習における学び方の「よさ」であると考えている。

② 「よさ」の共有のための手だて

ア 可視化

展開前半で、まず、広を中心とする人間関係やそれぞれの心情について図式化して板書し、状況について全体的なイメージをもたせる。この手だてによって、「お母さんとの約束を守る（規則の尊重、尊敬など）」か「試合を続ける（愛校心、思いやりなど）」か—どちらの行為を選択すればよいか、広が迷っていることがはっきりする。また、どちらの行為も、欲求や良心が動機となっていると気づくことができる。

つぎに、「迷っている広さんは、どうしたらよいと思うか」、つまり、「お母さんとの約束を守る」べきか「試合を続ける」べきか、心のカードを用いて割合で表すようにさせる。二者択一ではなく割合で表すことによって、どちらの行為も否定せず、自分がより善いと判断する行為を選ぶためである。

そして、行為を動機付ける欲求や良心を明らかにさせるため、割合の多い行為について、その行為をすべきだと判断した理由を書く活動を取り入れる。「お母さんとの約束を守る」行為を選んだ場合には「約束を守りたい（規則の尊重）」「お母さんの言うことを聞かなくては（尊敬）」などの欲求や良心が理由として挙げられると考えられる。一方、「試合を続ける」という行為を選んだ場合には「学級みんなで協力して試合をしたい（愛校心）」「試合をやめれば、友達が困る（思いやり）」などが挙げられるだろう。欲求や良心は、括弧書きにした道徳的価値によって方向付けられていると考えられる。

展開後半では、自分の行為を見つめさせ、「よく考えて行動することが大切であること（思慮反省）」という道徳的価値を自分との関わりで理解させるため、「自分が行動するとき大切にしたいことは何か」について、書く活動を取り入れる。書く活動と、それを聴き合う活動によって、導入時と比べ、思慮反省の大切さを理解していることに気づくと考えている。

さらに、板書でも、思慮反省という道徳的価値の自覚が深まったことに気づかせるため、導入で子どもが話した「よく考えて行動すること」の経験を書き残しておき、終末の書く活動の内容と比べさせる。初めは、よく考える「行動」に目を向けていたが、最後には「よく考えること」の大切さに理解が及んでいることに気づかせるようにしたい。

イ 「かかわり」

本資料は、日常にありがちな状況を描いており、子どもがイメージしやすい。また、「お母さんとの約束を守る」べきか「試合を続ける」べきか考え、様々な道徳的価値に気づかせることができる。

「迷っている広さんは、どうしたらよいと思うか」班で聴き合いをするときには、自他の考えを知り相手への理解を深めることができるように、聴き合いの方法に気をつけるようにさせる。相手と向き合って話を聴き、わからないことがあれば質問すること、考えを班でまとめる必要はないことを伝える。

話し合いでは、「お母さんとの約束を守る」べきか「試合を続ける」べきか、その理由に注目させるようにする。例えば、「お母さんの言うことは聞かなくてはならないから」という理由は、「お母さんの言うことを聞くこと」を正しいととらえ、それを実践しようという子どもの良心の現れととらえることができる。この良心は、お母さんのような日頃お世話になっている人には、尊敬の念をもって接すべきだ、「言うことを聞く」ことは正しい、という道徳的価値によって方向付けられていると考えられる。理由に含まれる道徳的価値に気づくことは、今後、より一般的な道徳的価値を生む知識となる。また、友達の意見を聴き、自分との同異を知ること、友達や自分を理解することにつながると考えられる。

そのうえで、状況を図式化した板書を用いて、広が困っている状況に再び意識を向けさせ、広の軽率な行為に気づかせる。「お母さんと約束したのだから、慎重に行為をしよう」という欲求・良心を持ち続けることができれば、困っている状況にはならなかったはずである。つまり、よく考えて行為をするという道徳的価値を重視していなかったことになる。このことを、子どもが筋道立てて説明することは難しいと考えられるため、子どもの意見を確認したり補足したりして、「よく考えて行動すること」が大切だと理解できるようにする。

ウ 実践的自覚へのデザイン

授業者の経験を聞かせることによって、よく考えて行為をすることに関心を向けるようにする。さらに、広の困っている状況を可視化することによって、子どもが課題をつかむことができるようにする。

授業後は、「大事なことをよく考えて行動すること」について掲示し、「よく考えることって大事なんだ」「失敗したときこそ、その後よく考えて行動しよう」という話題に触れるきっかけとする。

本学級では、子どもの成長や善い行いを、学期のふりかえり（『かしわっ子の成長』）に書き添えて、子どもと保護者に伝えている。学期末に近いことから、学期のふりかえりのメッセージや、個人懇談を通して、「よく考えて行動する」善さを保護者にも伝え、「よく考えて行動しよう」とする子どもを家庭とともに見守っていく。

(4) 本学習の展開

| 主な活動と内容 | 時 | 「よさ」の共有に関する手だてと意図 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 ねらいとする道徳的価値に気づく</p> <p>○「大切なことを考えて」行動することについて考えよう（授業者の経験を話す） 朝休みに教科書の準備をして本を読んでいたらみんなは絵の具セットまで用意していた</p> <p>○みんなはよく考えずに行動してうまくいかなかったことはあるかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物を頼まれたけどテレビを見てからと思っていたら叱られた ・ 塾が休みだと思って友だちと約束したら休みではないことがわかり約束を断った。 <p>2 資料を読み道徳的価値を高める</p> <p>○広さんは大切なことを考えて行動しているかな資料を読みます</p> <p>○広はどうして一人で考えこんでしまったの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試合をやめると1組のみんなが困る ・ お母さんとの約束を守らなければお母さんも山田さんも困る ・ みんなが楽しんでいるのに一人だけ抜けたらみんなに悪い <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>迷っている広さんは どうしたらよいのだろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ お母さんとの約束を守る—約束は守らなければならないからお母さんが困るから ・ 試合を続ける—1組が負けてしまうから友達が困るから <p>○広さんはどうして苦しい思いをすることになったの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広さんがお母さんと約束していたのに友だちと野球をしてしまったからだ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>大切なことをよく考えて行動することが大事なんだな</p> </div> | <p>10</p> <p>20</p> | <p>実践的自覚へのデザイン よく考えて行為をすることに関心を向けるため、授業者の経験を聞かせるとともに、自分の経験を思い出したり、それを聞いたりさせる。</p> <p>可視化 広を中心とする人間関係やそれぞれの心情を全体的にイメージさせるため、それらを図式化して板書する。 広は「お母さんとの約束を守る」べきか「試合を続ける」べきか—どちらの行為をすべきと考えるのか、自分の立場を決めてその理由を考えさせるため、自分の立場を心のカードを用いて割合で表すようにする。 広の欲求や良心を明らかにするために、割合の多い行為について、広がその行為を選ぶ理由を書く活動をさせる。</p> <p>「かかわり」 広はどちらの行為をすべきだと考えるのか、班で聴き合いをする。自他の意見を知り自他の理解につながるように、事前に活動の目的と方法を確認して、聴く構えをもたせる。聴き合いをふまえることによって、学級全員の話し合いで、自信をもって意見を出せるようにする。 話し合いでは、道徳的価値に気づくことができるように、広が行為を選ぶ理由に注目させ、広の欲求や良心について考えさせる。 さらに、広の軽率さに注目させ、「よく考えて行動すること」という道徳的価値を重視していれば、「慎重に行動しよう」とする良心が働くはずであることに気づかせる。ここで、思慮反省の重要性を理解させるようにする。</p> |
| <p>3 高められた道徳的価値を基に自分を振り返る</p> <p>○自分が行動するとき大切にしたいことは何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ だれかと約束をしたときはほかの人と約束しない ・ 相手のことを考える ・ 断るときは言いにくくてもはっきり伝える <p>4 道徳的実践への思いをもつ</p> <p>○失敗を契機にしてよく考えて行動するようになった子がいるよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (授業者の説話を聞く) | <p>10</p> <p>5</p> | <p>可視化 大事なことをよく考えて行為しているか、自分の行為を振り返るようにするため、書く活動と、それを聴き合う活動を取り入れる。 表面的な「行動」から内面的な「よく考えること」へと思慮反省の理解が深まっていることに気づかせるため、導入で子どもの経験を書いた板書と、終末の書く活動の内容を比べさせる。</p> <p>実践的自覚へのデザイン 友だちの思考や価値観、心情を受けとめ、主体的かつ協同的に、より善い行為や生き方を求める心情を育みたい。</p> |

(5) 本学習における授業の実際と考察

① 「よさ」の共有のための手だて ～実際と考察～ ア 可視化

「お母さんの約束を守る」べきか「試合を続ける」べきか—すべての子が、広がどちらの行為をすべきか自分の考えをワークシートに書き、その理由も書くことができた。人物の心情や行為の状況がイメージできなければ、どちらの行為をすべきか判断することは難しい。広を中心とする人間関係をもとに、それぞれの心情や状況を図式化した板書は、子どもが全体の状況をイメージする際に有効であったと考えられる（写真1）。

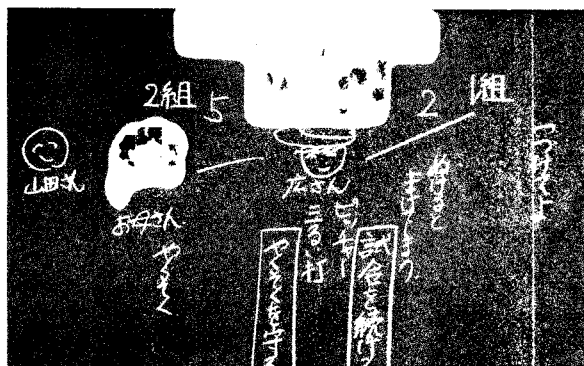


写真1 資料の状況を図式化した板書

子どもが書く活動にスムーズに入ることができたのは、心のカードの効果でもある（写真2）。

どの子どもも、学級全員の前で、広の迷い—「お母さんとの約束を守る」べきか「試合を続ける」べきかを、心のカードを用いて二者の割合で表すことができた。全員が表現できたのは、考えを割合で示すという表現方法が、言葉による説明に比べて容易で、二者のどちらか一方を選択する心理的圧迫感がないからであると考えられる。また、事前に板書によって全体的な状況のイメージをもたせたことも効果的だったと考えられる（資料1）。



写真2 心のカード

行為をすべきだと判断した理由を書く活動では、「お母さんとの約束を守る」べきか「試合を続ける」べきか—どちらの行為をすべきだと考えるか、すでに心のカードで表していたため、子どもは迷うことなく書き始めることができたと考えられる。

「お母さんとの約束を守る」とした子は、31人中28人である。以下、多数派であるこの意見の理由から見えていく。なお、理由は自由記述であり、複数の理由を挙げた子もいた。

「お母さんとの約束を守る」べきだと判断した理由として、「野球はいつでもできるが、約束は今しかできない（15人）」「約束は、やらなくてはならない（8人）」など7つの理由が挙げられ、「よく考えて行動すること（思慮反省、16人）」「約束を守ること（規則の尊重、12人）」など6つの道徳的価値を見取ることができた。過半数（16人）の理由から思慮反省を見取れたことは、導入の手立てに効果があり、「よく考えて行動すること」に関心が向いていたからだと考えられる。理由について話し合うことによって、思慮反省の重要性を高められる可能性を示しているととらえられる。また、「お母さんとの約束を守った方がいい。事情を話せば、友達はわかってくれるから（1人）」という理由は、友情という道徳的価値が、規則の尊重を後押ししていると考えられる。

つぎに、少数派の意見とその理由を見ていく。「試合をしたい（1人）」という意見は、それ自体が広の欲求を表していると考えられる。その理由「とっても楽しいし、結果が楽しみ」から直接に道徳的価値を見取ることにはできない。その他に、「約束を守ろうか野球をしようか（1人）」「約束を守って、それから学校にもどって試合をつづけたらいい（1人）」という意見があった。

行為をすべきだと判断した理由を見ていくことによって、書く活動で、どの子どもも、広の欲求や良心について自分の考えを文章で表現できたことがわかった。内容を詳しく見ると、「お母さんとの約束を守る」という1つの行為に、6つの理由、すなわち、欲求や良心が挙げられ、見取ることのできた道徳的

価値も、思慮、規則の尊重、思いやり、尊敬、勤労、信頼友情の6つに上っていた。様々な道徳的価値が1つの行為に関わっていることが確かめられた。さらに、友情が規則の尊重を後押ししたと考えられるように、道徳的価値同士に関係がある可能性が認められた。

| 広はどうすべきか—行為 | 行為をすべきだと判断した理由—行為を動機付ける欲求・良心 | 理由から見取った道徳的価値 |
|--------------|----------------------------------|---------------|
| 約束を守る | a 野球はいつでもできるが、約束は今しかできないから (15人) | 緊急性を重視した思慮 |
| | b 野球よりも約束の方が重要だから (1人) | 重要性を重視した思慮 |
| | c お母さんとの約束の方が先だから (4人) | 順序性を重視した規則の尊重 |
| | d 約束は守るべき、やらなくてはならないから (8人) | 規則の尊重 |
| | e お母さんを困らせたくないから (5人) | 思いやり、尊敬 |
| | f 役に立ちたいから (4人) | 勤労 |
| | g 事情を話せば、友達はわかってくれるから (1人) | 信頼友情 |
| 試合をしたい | h 楽しいから (1人) | |
| 約束か、野球か | i 友達が困るから (1人) | 思いやり |
| 約束を守り、試合も続ける | j 1組が負けてしまうから (1人) | 愛校心 |

資料1 「お母さんとの約束を守る」べきか「試合を続ける」べきか～意見とその理由

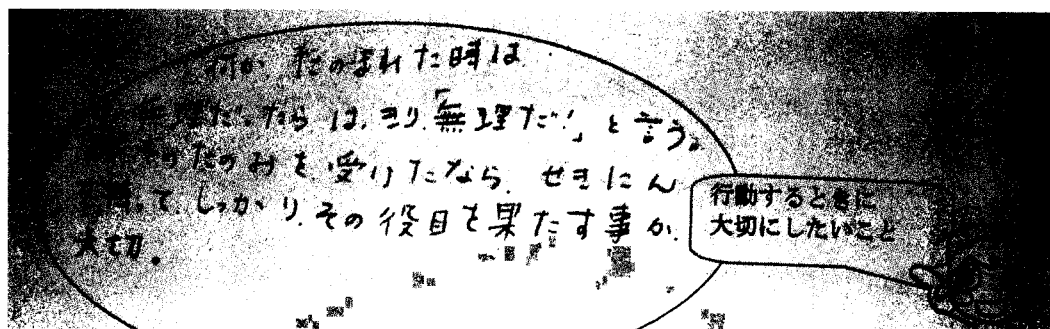


写真3 自分が行動するとき大切にしたいこと

展開後半には、思慮反省の道徳的価値をもとに自分の行為を考えるため、「行動するとき大切にしたいこと」を書く活動を行い、学級全員で聴き合う活動を行った(写真3)。

書く活動では、すべての子が考えを書くことができた。「頼みを受けたんだったら、責任をもって、しっかりと、その役目を果たすことが大切」と書いた子がいた。「責任をもってしっかりと」という態度が、「よく考えて行動すること(思慮反省)」のこの子なりのとらえである。

聴き合いでこれを広めることによって、他の子どもにも、思慮反省の自覚を促す手だてとした。

さらに、思慮反省の自覚を深め、「よく考えて行動したいな」「失敗したときこそ、よく考えるチャンスだ」という心情を育くむ手だてとして、子どもの『あゆみ』(本校の日記)の記述を紹介した。廊下を走ったために、教師から「もう4年生なんだから」と注意されたことを契機として、上級生として行動しようとするようになった、という内容である。

今回は、初めての研究授業で子どもの緊張感が伝わってきたため、導入で「よく考えて行動すること」について子どもが自分の経験を話す活動を省いた。この経験を板書に残すことによって、導入時に子どもが考えていた「よく考えて行動すること」のとらえと、展開後半で、行動するとき大切にしたいことを書く活動で考えた「よく考えて行動すること」のとらえを比べることができる。今後は、導入で子どもが経験を話す活動を取り入れ、両者を比較し、思慮反省の深まりを子どもが確認できるようにしていく。

イ 「かかわり」

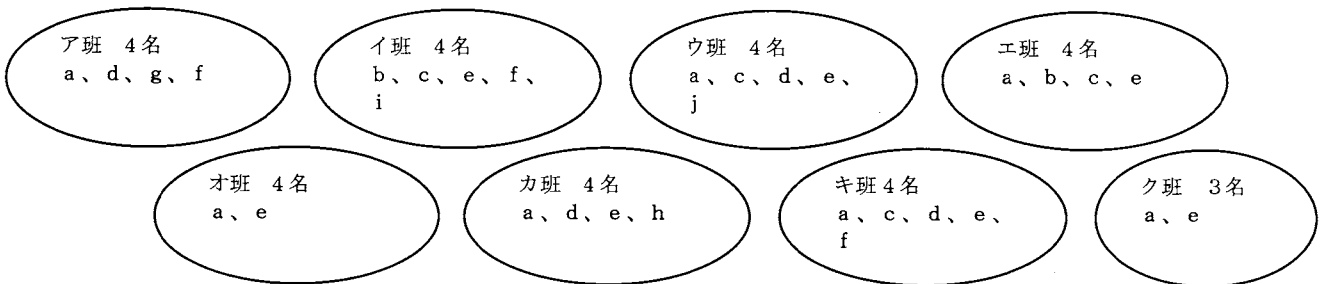
「お母さんとの約束を守る」べきか「試合を続ける」べきか—全員が、自分の考えを理由をも含めて書くことができ、その理由に、「よく考えて行動すること(思慮反省)」「約束を守ること(規則の尊重)」などの道徳的価値を見取ることができたことは、前に述べた。本資料は子どもにとって状況をイメージ

しやすく親近感がある資料であり、また、様々な道徳的価値に気づかせる資料であると言える。

聴き合いでは、ほぼすべての子が話をきちんと聴いてもらえたと答え、落ち着き、満足した様子だった。聴き手が、話し手の方を向き、最後まで集中して話を聴くことができたからではないだろうか。話し手は、書く活動で自分の考えをもてたので、はっきりと話すことができた。聴き合いの目的は、自他の理解を深めることである。そのために、うなずいたり目を合わせたりして話を聴く姿勢を身につけるようにしたい。そして、「〇〇まではわかったのですが、そこからわからないので説明してくれませんか」「それは、〇〇だということですか」「〇〇については、私も同じ意見です」など、自他の考えをさらに詳しく理解する聴き合いの方法を徐々に身につけるようにしたいと考えている。

話し合いでは、行為の理由に注目させることによって、多様な道徳的価値に気づくとともに、思慮反省の重要性に気づくことができたと考えている。話し合いで、書く活動で得た考えのほとんどが発表されたこと、また、自分や学級の考えを高めた例によって説明する（資料2）。

まず、書く活動では、「お母さんとの約束を守る」「試合を続ける」理由として、「野球はいつでもできるが、約束は今しかできないから」「1組が負けてしまうから」など10の考えを書くことができた。このうち、「お母さんとの約束の方が先だから」を除く9つの考えが発表されている。なお、考えの内容を班ごとに見ると、2つの班で、全員が「野球はいつでもできるが、約束は今しかできないから」を挙げ、1人が「お母さんを困らせない」を挙げていた。この2つの班では、聴き合いのときに、2つの考えしか出なかった可能性があるが、話し合いをすることによって、7つの考えを得ることができた。



資料2 「お母さんとの約束を守る」「試合を続ける」理由を班毎にしたもの a～j の記号は、下の表（資料1から抜粋）の理由を表している

| 行為をすべきだと判断した理由—行為を動機付ける欲求・良心 | |
|------------------------------|-----------------------|
| a 野球はいつでもできるが、約束は今しかできないから | f 役に立ちたいから |
| b 野球よりも約束の方が重要だから | g 事情を話せば、友達はわかってくれるから |
| c お母さんとの約束の方が先だから | h 楽しいから |
| d 約束は守るべき、やらなくてはならないから | i 友達が困るから |
| e お母さんを困らせたくないから | j 1組が負けてしまうから |

つぎに、自分や学級の考えを高めたと考えられる例を説明する。

聴き合いをふまえ、自分の考えをはっきり発言できるようになったことで、教師の発問だけではなく、子どもの発言が話し合いを転回させることがあった。例えば、「お母さんとの約束を守る」という意見が続く中で、ある子が、同じ班の子に促されて、「試合続けたい、野球とかが楽しい」という少数派の意見を述べた。この発言をきっかけに、子どもが「広はどうしたらよいと思っているか」から「広自身はどうしたいと思っているか」へと話し合いは転回した。また、書く活動や聴き合いで考えたことを、そのまま伝えるだけでなく、友達のと自分の考えの共通点を見つけ、その場で考えて伝え合うようになっていった。「みんなに（試合を）続けてっていっぱい言われたから、やりたい気持ちも強くなる」「期待されてる、みんなの期待を裏切りたくない、約束も守りたい、すごく迷ってる」といった発言である。

これらの発言は、子どもが、広の欲求や良心に仮託して、自分の欲求や良心を伝えているように推察される。さらに、子どもが行為を判断するときに、役割期待が関わっていることを示している。行為によって影響を受ける他者の期待が、子どもの欲求や良心に働きかけて、行為を動機付ける可能性があると考えられる。

つぎの話し合いの転回点は、「広さんの考え、もっとあります」と大きな声を上げて挙手した子どもの発言であった。「まだ続けたい、約束も守りたい、約束を思い出してたら、こんなことにならなかったのに、と後悔してる」という考えが伝えられた。その後、個々の子どもは、話し合いによって、「こんなこと」とは、「広も周りの人も困っている状況」だと確認することができた。



写真4 聴き合いの後、増えた挙手

「広は後悔している」と発言した子どもは、広も周りの人も困っている状況をとらえたうえで、友達の率直な発言を聴くことによって、役割期待に応えようとする広の欲求、「お母さんとの約束を守りたい」「試合を続けたい」を共感的に理解するようになったと考えられる。そして、お母さんとの約束を忘れて友達と試合を始めてしまった広の軽率さに気づくと同時に、広はその軽率さを後悔しているに違いないと思いついたのであろう。ここで、軽率、つまり、「よく考えず行動すること」が、「よく考えて行動する」ことの反対であることを教師が説明する

ことによって、より多くの子どもが思慮反省の重要性を理解できたと考えられる。「広は後悔している」という発言は、この子どもが、断片的な知識を、全体を見通して結び付け、有意味化を達成したことを表していると考えられる（写真4）。

ウ 実践的自覚へのデザイン

展開前半、行為をすべきだと判断した理由を書く活動で、28人が「お母さんとの約束を守る」べきだと考え、過半数の16人の理由から思慮反省を見取ることができた。また、書く活動で10の理由を考え、話し合いでは、そのほとんど（9つの理由）を出し合って考えを高めようすることができた。導入と可視化の手だてによって、思慮反省に関心が向き、広はどうしたらよいのかという課題を、自分のものにしていくことを示しているにとらえている。

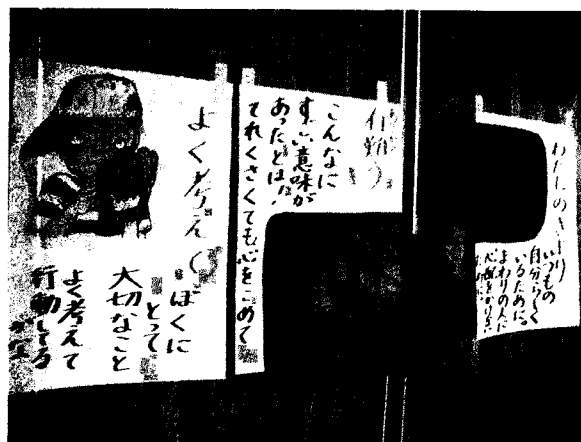


写真5 学習後も話題にできる掲示

授業の翌週、「よく考えて行動すること」の大切さに再び触れる機会をもった。ある日常体験から、「約束はどうして守らなくてはならないの」と問うと、子どもは、「相手に迷惑をかけるから」「自分が信用してもらえなくなるから」など、様々な理由を述べた。「約束を守る」という行為が相手との信頼関係を保つために重要であると気づくことができた。さらに、「約束を守るためには、どうしたらいいの」と聞き、「よく考えて行動すること」の大切さを再確認させることができた（写真5）。

また、個人懇談や『かしわっ子の成長』（学期のふりかえり）で、子どもが「よく考えて行動する」姿を家庭に伝えることができた（資料3）。

いつも何が大切かよく考え、しっかりと行動する姿は、4年生のお手本です。
最近、ほんの少し授業中のおしゃべりが気になるのだけれど、それも、いつもがとっても
すばらしいから。
これからも、よく考えて行動してほしいと願っています。

資料3 教師から子どもへのメッセージ『かしわっ子の成長』より

(6) 本学習を終えて

① 本学習における成果

思考の「よさ」については、個々の子どもは、広は「お母さんとの約束を守る」べきか「試合を続けるべきか」、その理由を明らかにして話し合うことを通して、思慮反省、規則の尊重、思いやり、尊敬、勤労、信頼友情、愛校心の7つの道徳的価値に触れることができた。また、思慮反省の大切さについて、自分の行為をふり返って考えることができた。さらに、よく考えることを大切にしていこうとする心情を育むため、子どもが『あゆみ』に書いた経験を紹介し、子どもの善い行為を『かしわっ子の成長』で家庭に伝える手だてを講じている。



写真6 考えとその根拠を書く活動

学び方の「よさ」については、書く活動と聴き合いをふまえることによって、自分の意見が少数派の「試合を続ける」であっても、話し合いで意見を出すことができ、率直な話し合いをすることができた(写真6)。その後、広に仮託して、自分の良心や欲求を話していると推察される「みんなの期待に応えたい」という意見も出てきた。自他の欲求や良心について、知る機会となったと考えている。

② 今後の課題

可視化の有効な手だての1つは、板書である。課題をつかませるために資料の状況を図式化したり、道徳的価値の高まりを確かめるために導入時の道徳的価値を書き留めたりする。しかし、黒板を書くことに気をとられて、教師が、発言している子を見守ることをおろそかにしないように留意したい。

さらに、道徳的価値に気づかせるため、それぞれの道徳的価値を教師自身が深く理解し、子どもにとってわかりやすい言葉で説明できるようにしておく必要がある。

今後、子どもに身につけさせたいこととしては、聴き合いの方法がある。聴き合いの姿勢や質問法に徐々に慣れ、相手の伝えたいことを正しくとらえられるようになることによって、自他の理解はさらに進むと考えられる。また、話し合いで相手の考えを受けとめ、自分の考えに取り入れたり、共に新しい考えをつくったりすることができるようになると考えられる。

個々の子どもが、互いの存在を認め合い、かかわり合って、より善い行為と生き方を求める姿をめざし、学習活動を計画・実践するとともに、家庭と連携して子どもを見守っていききたい(写真7)。

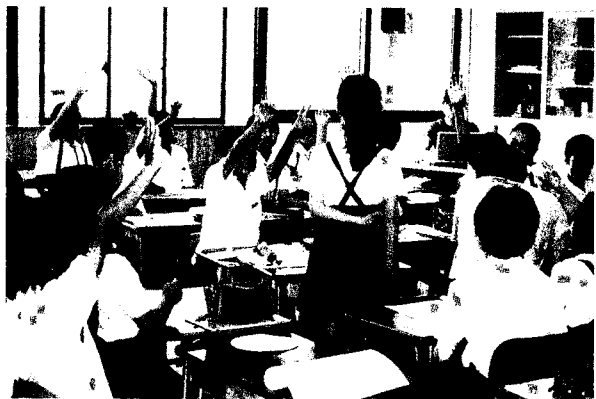


写真7 「かかわり」のための聴き合い